

協議事項（１）

岩手県アレルギー疾患医療に関する基礎調査結果（簡易集計）及び活用等について

1 調査目的

本県におけるアレルギー疾患医療提供体制の現状を把握し、アレルギー疾患医療提供体制の更なる整備及び医療機関間のネットワークづくり（アレルギー疾患相談者に対する情報提供を含む）に資することを目的とする。

2 調査期間

令和元年 11 月 1 日から令和元年 11 月 20 日

3 調査内容

- ① 日本アレルギー学会が作成したガイドラインの把握・活用状況
- ② アレルギー疾患診療実施状況
- ③ アレルギー専門医等勤務状況
- ④ アレルギー診断・治療の状況等

4 調査方法

岩手県内全医療機関 780 施設を対象に郵送にて自己式質問紙を配布し、ファクシミリまたはメールで回答を得た。

※一般診療所 689 施設、病院 91 施設（R 元. 8. 1 時点東北厚生局公表保健医療機関）

5 結果

- (1) 回収数（率） 442 施設/780 施設中（56. 7%）

※一般診療所 381 施設、病院 61 施設（77 診療科）※全 458 診療科

- (2) 結果の概要

- ① 日本アレルギー学会が作成したガイドラインの把握・活用状況では、治療を実施している 335 診療科中「ガイドラインを読んでいない」または「知らない」と回答しているのが 240 診療科（71. 6%）であった。
- ② アレルギー疾患診療実施状況では、治療を実施している診療科を保健医療圏域別（注 1）にみると、9 圏域中盛岡圏域が 152 診療科（44. 4%）と最も多い。
アレルギー 6 疾患（注 2）の治療状況をみると、いずれも内科、小児科での治療が多く、気管支ぜん息と食物アレルギーは約 77%が内科、小児科で治療を受けている。
- ③ アレルギー専門医等勤務状況では、日本アレルギー学会専門医（非常勤専門医含

む) は 32 人で、内科系が 15 人とおよそ半数を占める。32 人が勤務している診療科を保健医療圏域別にみると、盛岡・岩手中部・胆江・両磐圏域と内陸部が多い。

- ④ アレルギー診断・治療の状況では、治療実患者数は 290,665 人であり、アレルギー性鼻炎が 109,279 人 (37.6%) と最も多い。

6 本調査の活用と方向性について

- ・治療を実施している診療科でもガイドラインを読んでいない等と回答した所があることから、診療科に勤務する医療従事者を対象とした研修等によるガイドラインの周知と併せて資質向上を目指した人材育成を図る必要がある。
- ・アレルギー治療を行っている診療科や学会専門医が内陸部に多い。ネットワークを構築し連携や役割分担を行うことで、医療の均てん化を図っていく必要がある。
- ・アレルギー疾患患者やその家族が適切な治療を受けながら生活の質が保持されるよう本調査による情報を基に、相談窓口等でアレルギー疾患相談者の持つ個々の不安や悩みに応じて情報提供を行う。

(注 1) 保健医療圏域の内訳:

- ・盛岡保健医療圏 (盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町)
- ・岩手中部保健医療圏 (花巻市、北上市、遠野市、西和賀町)
- ・胆江保健医療圏 (奥州市、金ケ崎町)
- ・両磐保健医療圏 (一関市、平泉町)
- ・気仙保健医療圏 (大船渡市、陸前高田市、住田町)
- ・釜石保健医療圏 (釜石市、大槌町)
- ・宮古保健医療圏 (宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)
- ・久慈保健医療圏 (久慈市、普代村、野田村、洋野町)
- ・二戸保健医療圏 (二戸市、軽米町、九戸村、一戸町)

(注 2) アレルギー6 疾患:気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、花粉症、アレルギー性結膜炎、食物アレルギー